

人権学習展開例

第1学年

- 主題名 差別の構造について考える
- 教材名 偏見って何？
- 人権学習の視点 普遍的な視点「差別の構造」
- 主題・教材について

本教材は、自分たちの身の回りにある決めつけや思い込み（固定観念）が、偏見・差別へと発展する構造を理解するためのものである。日頃の自分たちが、相手の内面を理解せず、決めつけや思い込みによる行動や発言によって知らないうちに相手を傷つけてしまっていないか考えさせ、差別を見抜き、人権侵害につながる偏見を持たないよう、科学的根拠に基づき、正しく物事を判断する態度を養いたい。

また、本教材では、参加体験型学習（ワークショップ）のルールを共有させる。生徒が感じたこと、考えたことを大切にしながら学ぶために、3つのルールを指示する。1つ目は「参加」で、参加体験型学習は生徒が主役であり、積極的に参加することを促す。2つ目は「尊重」で、できる限り自分の言葉で、相手の思いや考えを尊重するように指導する。反対意見などについても否定しない。3つ目は「守秘」で、話し合いで出た意見などは個人的な考えや思いがあるため、この学習の後、他の人にそのことを伝えたりしないように留意させる。

●ねらい

決めつけや思い込みが、偏見や差別へと発展することを理解させる。正しい人権感覚のもとで、決めつけや思い込みによって人を判断するのではなく、その「ひと」を理解し、認め合おうとする意欲・態度を身に付けさせる。

●関連する教材

人権学習資料集〈高等学校編〉「5 気づき（どうしてなんだろう?）」

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	○本時は身近にある固定観念や偏見、差別について学ぶことを知る。	○落ち着いた雰囲気をつくる。	
これって、どう思う？					
導入	○「決めつけ」や「思い込み」とはどのようなものかを理解させる。	ペア グループ	○ワークシート①（これってどう思う？）の会話について、グループで配役を決め、ロールプレイを行う。 ○会話のどの部分が「決めつけ」や「思い込み」にあたるか、グループで話し合い、発表し合う。	○明るく前向きに活動が進むように配慮しながら、ペア活動などできるだけ多くの生徒に活動させる。 ○他人ごとではなく、自分のこととしてとらえ、積極的に考え、深め、発言することが大切であることを伝える。	ワークシート①

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入				○各グループに発表させ、まとめとして、人は「決めつけ」や「思い込み」をしてしまうことがあることを押さえる。	
展開	私たちの身の回りにも「決めつけ」や「思い込み」がないだろうか。				
	○自分自身の経験について考えさせる。	グループ	○身の回りの生活を振り返ってワークシート①の会話のような「決めつけ」や「思い込み」について考え、話し合う。 →自分自身の経験はあるか。 →自分が決めつけられたときは、どんな気持ちだったか。 →自分が誰かのことを決めつけたり、思い込んでいたことはなかったか。相手はそれを知るとどんな気持ちになるだろうか。	○「参加・尊重・守秘」を守り、否定、批判をさせない。 ○「アサーション」の考え方に基づいて、自分の気持ちを素直に表現させる。しかし、そこには相手の気持ちもあることを意識付けさせる。（「アサーション」については指導者用資料参照）	
	固定観念・偏見・差別の違いを知り、偏見と差別を見抜こう。				
	○固定観念・偏見・差別の違いを理解させる。	一斉	○固定観念（ステレオタイプ）・偏見・差別について、ワークシート②の1の解説を読み、指導者の説明を聞く。	○指導者用資料も参考にする。	ワークシート②
	○決めつけや思い込みが偏見につながり、それが言葉や行動にあらわれることが、差別につながることを理解させる。	個人	○ワークシート②の2について考え、答えを記入する。 ○ワークシート②の3について、偏見や差別を解消するためにどのようにすればよいか、考えて記入する。 (例) ・やめたいこと →相手を、人から聞いたうわさで勝手に決めつけたりすることをやめたい。 ・始めたいこと →うわさや思い込みで決めつけるのではなく、自分が相手と接して、相手の良いところを見つけられるようにしたい。 ・変えたいこと →周りで、うわさや思い込みで人を決めつけている人がいたら、やめようと声をかけたい。	○1の例とつなげて考えさせる。 ○固定観念や偏見は、科学的根拠のない無責任なイメージやうわさによって広がることを助言する。 ○広がった固定観念が、偏見・差別へと発展することに気付かせる。 ○日頃の自分たちの行動や発言を振り返らせる。 ○知らず知らずのうちに人の気持ちを傷つけているかもしれないことを想像させる。また、嫌な思いをする人の気持ちを想像させる。 ○相手を偏ったものの見方で決めつけてしまうことで、相手の生き方や思いを傷つけ、深刻な差別問題を引き起こすことを理解させる。	
		グループ	○記入したことをグループで交流し、発表し合う。		

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
まとめ	○本時の学習を振り返らせる。	一斉	○本時の学習を振り返る。	○今後の生活の中で、問題を見抜き、偏見や差別に気が付いたら正しく行動していけるように指導者の思いを伝える工夫をする。	

●評価

決めつけや思い込みが、偏見や差別へと発展することを理解したか。正しい人権感覚のもとで、決めつけや思い込みによって人を判断するのではなく、その「ひと」を理解し、認め合おうとしているか。

<発展的な学習>

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○固定観念が偏見、差別へと移行していく際の、「否定的な評価・感情」「行動化・行為化」に対してできることを考えさせる。	個人	○ワークシート③の問いについて考え、記入する。 →固定観念が偏見につながるようにするためには、どんな力をつけたらよいか。 →偏見が差別につながるようにするためには、どんな力をつけたらよいか。 →社会の中で、偏見が差別につながるようにするためには、何が必要か。	○ワークシート③の図をもとに、「否定的な評価・感情」「行動化・行為化」に注目させる。 ○時間が確保できる場合は2時間設定として、視聴覚教材と組み合わせて具体的に課題をとらえさせたり、グループで交流して話し合う時間をとり十分に考えが深まるようにする。	ワークシート③

